



学校だより 10月号

令和6年9月26日



多摩市立西落合小学校

校長 久保明彦



後期が始まるにあたって ～助け合う子～

校長 久保明彦

もうすぐ10月を迎えます。ようやく日中の暑さも少し和らいてきました。これから過ごしやすい気候になることを期待しつつ、子どもたちには、落ち着いた環境の中で、毎日の学習をはじめ、運動や読書などに思う存分励んでほしいと願っています。本日、後期の始業式を行いました。校長講話では、以下の通り「三つの幸せ」という話を子どもたちにしました。

ある企業家によれば、人間の「幸せ」には三つあると考えられるそうです。

一つ目は「してもらう幸せ」です。生まれた時からのことを考えると、例えば、赤ちゃんがオムツを替えてもらう、泣いたときに抱っこしてもらう、つまり、家族や周りの人から何かをもらうと幸せな気持ちになります。これがしてもらう幸せです。今の皆さんで言えば、ご飯を作ってもらったり、病気の時に看病してもらったり、少し考えただけでも、みなさんも、いろいろな人にしてもらっている幸せがたくさんあると思います。

二つ目は「できる幸せ」です。例えば、赤ちゃんが大きくなって、自分で歩けるようになる、自分で食べられるようになる、つまり、いろいろなことが自分でできるようになる幸せです。今の皆さんで言えば、漢字が書けるようになった、算数の計算ができるようになった、跳び箱が跳べるようになった、自転車に乗れるようになった。今までできなかったことができるようになると、嬉しくてとても幸せを感じる事ができると思います。

そして三つ目です。それは「してあげる幸せ」です。人が困っていたら助ける、友だちが一人ぼっちでいたら声をかけて一緒に遊ぶ、これが一番の幸せです。友だちのことを思って行動してあげれば、その人は笑顔になり、喜んでくれます。また、友だちが笑顔になったり喜んでいたりする姿を見ることで、自分自身も幸せになります。

ぜひ後期は、みんなが友だちや周りの人に「何かをしてあげること」で「幸せ」を感じられるようになってほしいと思います。そして、西落合小学校をみんなで笑顔いっぱい幸せいっぱいの学校にしていきたいと思います。

令和6年度後期は、子どもたちが友だちと積極的に関わり、相手のことを思いやって行動できるようになってもらいたい、という願いから以上のような話をしました。「してあげる幸せ」は、本校の教育目標の一つでもある「助け合う子」につながっていると思います。

これから、後期の大きな学校行事である11月の展覧会に向けて、図工や家庭科の作品作りが本格的になります。一人ひとりの感性や感受性がより一層豊かに成長していく、実りの多い秋となりますよう、教職員一同一人ひとりを大切に教育活動を進めて参ります。今後とも引き続き、本校の教育活動へのご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。